

道徳通信

大田区立馬込第三小学校
道徳部
令和6年2月20日(火)
第6号

あっという間に2月も半ばとなり、3学期も残すところ1か月半ほどとなりました。先日は、道徳授業地区公開講座を実施し、たくさんの保護者の方に道徳科の授業の様子を御覧いただきました。また、講師に橋本ひろみ先生をお招きして、お話をさせていただきました。保護者の方の御感想で、橋本先生のお話を聞いた内容がありました。御紹介させていただきます。

中休みの橋本先生のお話を聞きました。初めてお話を聞いて、道徳授業に力を入れている意味がわかりました。子が成長する重要な要素であり、大人の私たちが日常生活や社会(仕事)生活の中で、改めて見直すべきことも含まれ、もっと多くの保護者の方に聞いてもらいたい内容でした。「道徳」というと私たちの小学生の頃(30年前以上前)のイメージで、今はだいぶ違うことが分からず敬遠されている方も多いと思いますが、子供と接することに悩んでいる方にぜひ、聞いてほしいです。橋本先生のやさしい心のコモった話し方に思わず涙があふれてきました。

簡単にですが、橋本ひろみ先生のお話をまとめます。ぜひ、お読みください。

思いやりの心



学校では、常に道徳教育を行っています。例えば、朝「おはようございます」と挨拶するのは、礼儀の指導です。貸したものを返す時には「ありがとうございました」と両手を添えて返すことも必要です。直接的に行為や行動を相手に伝え、そのときに、どのような気持ちになるかを考えることで道徳性が育ちます。道徳性が育つためには、他律から自律への行動の変容が必要です。人から押し付けられたものは、自分の本当の道徳性にはなりません。そのために、気持ちの部分に光を当てて考えることが、道徳科の学習に必要です。

思いやりは様々な場面で必要です。みんなが使うものを大切にすることの公德心には、周りの人や次に使う人のことを考えることが必要です。礼儀正しい行動には、相手を大切にすることや思いが形に表れます。親がどのようにお子さんに関わったら思いやりの心が育つのでしょうか。それには、大きく2つのことが考えられます。

1つは、親の姿を見て、無意識のうちに感化されることによるものです。他者を大らかに受け止めている親の姿を見ている子は、大らかな心が育ちます。逆に、不寛容で常に不満にまかせている姿を見たら、その姿しか学びません。そのため、不寛容で、ささいなことでも不満を抱くようになるでしょう。そうなると、他者との関係はうまく築けません。親の行動が、お子さんにとって人生の宝になるのか、それとも人生の不利益になるのか、とても大きいことです。

もう1つは、親の意識的なはたらきかけによるものです。子供は、年齢が上がるにつれて、人を批判する目が育ってきます。しかし、まだまだ心は子供です。うまく自分を表現できなくて、涙が出ることや嫌な態度を取ることもあります。その時に、寄り添ってくれる大人がそばにすることが大切です。お子さんが、辛い思いをしていたら「辛かったね」「あなたにとって成長になるよ」と声をかけてください。一緒に悩んで、考えて、子供の複雑な気持ちを整理してください。泣いている我が子には「辛かったね」「悲しかったね」「痛かったね」と声をかけてください。自分の気持ちを分かってくれる人を、子供は信頼します。信頼する大人が自分の気持ちに寄り添ってくれると、子供は感情のコントロールができるようになるでしょう。

学校では、いろいろな感情をもつ人たちと関わります。お子さんが悲しい思いを我慢しているときには、「えらかったね」「よく頑張ったね」「よく我慢したね」と、その行動を認めてください。自分の言動を価値付けられ、認められてよかったという積み重ねがあると、お子さんは思春期で悩んだときに親の元に戻ってきます。叱って育てるよりも褒めて育ててあげてください。悪口や批判ばかりを聞かせるのではなく、我が子や他者を尊重する親の姿を示していく関わりを目指していきたいものです。御家庭の中でも御協力いただけると幸いです。

5年生の授業の様子

道徳授業地区公開講座では、各学級が道徳の授業を公開しました。5年生の授業の様子を御紹介します。

内容項目：相互理解、寛容

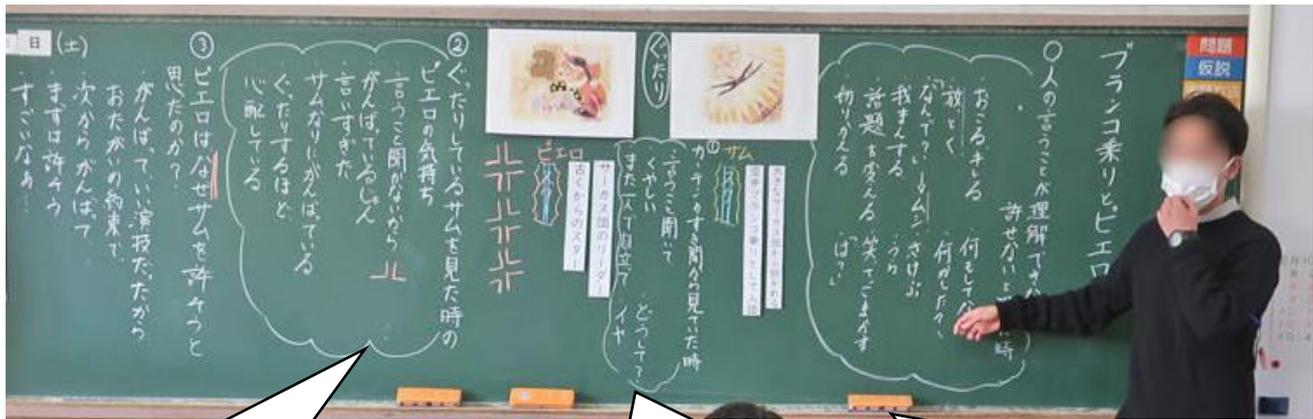
教材名：ブランコ乗りとピエロ

あらすじ

ピエロがリーダーを務めるサーカス団に、空中ブランコ乗りの得意なサムが、他国の大きなサーカス団から招かれてやってきます。そのサムは、スター気取りでピエロの言うことも聞かずに、自分勝手な行動をとり、大王が観覧に来た時には、自分のもち時間も守らずに演技をし、人気を独り占めするのです。大王の前で演技を披露する機会を失ったピエロや団員はサムに腹を立てますが、誰よりも真摯に演技に向き合っていることに気付いたピエロは、サムを受け入れます。



どの教科等でも同様ですが、道徳の学習でも、板書が大きな意味をもちます。45分の学習の様子が分かるような板書を工夫します。



吹き出して示して、視覚的に分かりやすく示します。
「ぐったりしているサムを見た時のピエロの気持ち」
・がんばっているじゃん
・言いすぎた

教師の発問や児童の発言を板書します。
「カーテンの隙間から見るサム」
・言うことを聞いてほしい
・くやしい
・また、一人で目立っている

導入での児童の発言を板書します。
「人の言うことが理解できない時、許せないと思った時」
・怒る ・我慢する ・話題を変える
・笑ってごまかす

このように、教師の発問や児童の発言を板書することで、「相互理解、寛容」に関わる子供たちの考えを整理します。自分とは違う考えの相手の受け入れることは、簡単なことではありません。受け入れたくない気持ちや相手に対する不満などをしっかりと考えます。ピエロはサムを受け入れますが、すぐにサムを受け入れた訳ではないでしょう。ピエロの心の中にある迷いや葛藤を十分に考え、じっくりと話し合うことで広い心を持ち、相手を受け入れることの大切さに気が付くのではないのでしょうか。いろいろな感情をもつ子たちとの関わりや話し合いを通して、一人一人の子供たちの道徳性が育まれることにつながるのでしょうか。